



# 北京

選手の  
川崎真裕美  
挑戦

― 市内在住の川崎真裕美さん（海老澤製作所・筑西ふるさと大使）が、北京五輪（女子20km競歩）の日本代表を確実にしています。川崎さんの五輪出場は、2004年にギリシャで開催されたアテネ五輪に続く、2回連続の出場となります。

― 8月に迫った北京五輪。

― 夢の舞台に挑む、川崎真裕美さんを紹介します。



## 国内選考は通過点 ゴールはオリンピック

今年1月27日に神戸市で開催された日本選手権。この大会は北京五輪代表選考を兼ねた大切なレースでした。優勝は絶対条件、さらに五輪出場のための標準記録を破ることも求められました。

北京への切符を虎視眈々<sup>こしたんたん</sup>とねらう若手選手がひしめくなか、日本競歩界の第一人者となった川崎真裕美さんは静かにスタートラインに立っていました。

「このレースはあくまでも通過点。私のゴールはオリンピック」。

レースは小雪が舞う寒いなか行われましたが、彼女は序盤からトップを守り貫録の優勝。五輪標準記録を軽々と

破る大会新記録で五輪代表を確実なものにしました。「4年前にアテネ五輪の出場を決めたときも小雪が舞っていました。きっと今回も雪が祝福してくれていると感じました」と五輪代表の最有力になった川崎さん。

しかし、彼女にとって前回のアテネ五輪から4年間の道のりは、決して平坦なものではありませんでした。

## 世界で通用する アスリートへ

「アテネ五輪では、まさかの40位。とても悔しかった。世界との差を思い知らされました。これまで私がやってきたことがすべて覆された思いでした」と振り返る彼女は、次の目標をすぐに4年後に開催される北京五輪へ向け歩

き出します。「世界で通用する自分を作り上げる。そのためなら何でもやってやる」と誓ったそうです。多いときには、1日に4時間40kmの競歩、筋力トレーニング、体質改善のために食事のコントロール……。「競歩は競技者が少ないので、普段の練習では競い合う相手がいまません。晴れた日などは自分の影をライバルに見立てて練習します。練習はとても苦しいです。でも、北京でアテネの悔しさを晴らしたいという思いが支えになっています」。

そんな練習に明け暮れていた彼女にトラブルが襲います。アジア大会を前にひかえた2006年8月、過度の練習からヒザを痛めてしまいます。それから3か月間、練習をすることができませんでした。「とてもつらく、不安

な日々でした」と川崎さん。練習再開後も女子高校生ぐらいのスピードしか出なかったといいます。

年が明けて2007年1月28日、4連覇のかかった日本選手権に強行出場。故障を抱え、思うような練習ができなかった彼女。結果は4位。さらに、彼女の持つ日本記録を上位の3人に破られてしまいます。「一夜漬けの練習で勝てるほど、競技の世界は甘くないと実感しました。でも、このレースで自分の弱点を見直すことができました」。

この悔しさが、彼女に火をつけました。「日本記録をもう一度奪回してみせる」。それからわずか2か月後の3月25日、石川県で開催された全日本競歩大会（根上大会）で彼女は復活します。

気温が低く小雨の舞うレースコン

マラソン用を競歩用に改良した、川崎選手専用のシューズ。彼女はこのシューズを1か月で履きつぶすという。

ディションのなか、先行逃げ切りを得意とする川崎選手は序盤からトップにたちます。その後も後続をぐいぐいと引き離し1位でゴール。2位に4分も差を付ける日本記録更新での優勝でした。「ゴールの瞬間は、感極まって泣いてしまいました。故障でアジア大会を欠場したり日本選手権では4位だったりと散々でしたから」。この結果、川崎選手はその年の8月に開催された「世界陸上2007大阪大会」の切符も手に入れました。

この短い期間に日本記録が何度も塗り替えられるという出来事は、テレビでも取り上げられ話題になりました。

## 「競歩」との意外な出会い

川崎真裕美さんと競歩の出会いとは下館二高2年生のとき。「陸上部に所属していた私は、800mや3000mな

ど中距離の選手でした。いつも県大会では10位ぐらいの成績でしたね」。

そんな彼女に、陸上部の鈴木理弘先すずきまさひろ生が「川崎、全国へ行きたくないか？

競歩という種目があるけれどやってみないか？」と声をかけました。「単純な私は、あこがれの全国大会へ出場できる。それだけで『やります！』と答えてしまいました。競歩ってどんな種目か知らないのに」と笑顔で当時を振り返ります。「私の背格好が前任高

で指導していた全国入賞の実績を持つ選手に似ていたそうです。先生も『俺も競歩はやったことがないから、どんなものかわからない』って。先生は元110mハードルの選手で競歩の経験が全くなくそう答えていました。無責任な話ですよ。でも、あこがれていた全国大会への道が開けた瞬間でした。それから、鈴木先生と手探りで競

歩に挑んだ彼女は、めきめきと頭角をあらわし、県の代表として、念願の高校総体や国体出場を果たします。

そして、高校卒業後も競歩を続けたいと決意した彼女は、競歩に打ち込めるよう、市内の「海老澤製作所」(門井)に入社します。

## ゴール後の失格もある 過酷な競技「競歩」

競歩は、文字通り「歩く」速さを競う競技です。しかし、ただ速く歩くだけではいけません。競歩には反則となる2つの行為があります。1つ目は、両方の足が同時に地面から離れること。もう1つは接地の瞬間から地面と垂直になるまでの間に、前脚のひざを曲げてしまうこと。これらの反則が累積すると、審判から失格を宣告されます。競歩は順位やタイムだけではなく、ルー

ルとの戦いでもあります。また、20km種目のほかに男子には50km種目もあり、反則による失格以外にも、競技の過酷さゆえに途中棄権してしまう選手も少なくありません。

彼女に競歩の魅力をたずねると「選手によって感じ方も違うとは思いますが、私は『スルメイカ』みたいな競技だと思えます。噛めば噛むほど味が出るように、やればやるほど、自分の競歩スタイルも良くなっていきます。そしてクセになったら止められない。良い意味でクセのある競技だから、良さを知ったらもう止められないですね。私にはそこが魅力です。陸上競技で唯一フォームにルールがあり、途中失格もある残酷なところや、フィギュアスケートのような華やかさもなければ、ゴール後の感動はどんなスポーツにも負けないと思います」。



# いざ、夢の舞台へ

北京五輪は8月8日に開幕します。川崎真裕美さんが出場予定の女子競歩20kmは大会13日目の8月21日に競技が行われます。

これに先立ち、今年の4月には、北京五輪のメインスタジアム『国家体育场（愛称・鳥の巣）』で、プレ五輪「競歩テスト大会」が行われました。代表を確実にしている川崎さんも出場し、本番のコースを試走しました。競技の舞台は、このスタジアムとオリンピック公園の周回コースで行われます。

コースの印象を「石畳で脚にハードなイメージです。敵は、周回コースすべてに敷き詰められた『御影石の硬さ』と『北京の暑さ』です」と話す川崎さん。「情報によると、現地の8月の平均気温は36℃、湿度70%にもなるそうです。暑さ対策の取り組みとしてウェアやシューズを改善したり、スペシャリストに痙攣防止の電解質（塩など）を入れてみたり工夫をします。そして平坦なコース設定に対応するため、リズムの良いフォームを定着させます。それらに取り組むため、これから3回の強化合宿を張り、自信をつけて本番に臨みます」。

彼女は、朝夕の練習を勤行川の桜堤で行っています。「練習中に市民のみなさんから『がんばって』と声をかけ

られると本当に励みになります。私が競歩と出会って12年、夢をあきらめずにこれまで頑張ってきたのは、筑西市のみなさんのおかげです。そして、勤め先の海老澤社長や社員のみなさん、下館二高の鈴木理弘先生や後輩たちが私をバックアップしてくれています。みなさんの期待に応えるためにも、必ず北京五輪でいい結果を残していきます」と決意を話してくれました。

「全国の舞台に立ってみたい」そう夢見た少女が、いま、世界最高峰の舞台に立とうとしています。いくつもの夢を実現してきた彼女。北京での活躍が期待されます。

## がんばれ 川崎真裕美選手

川崎がうちの会社に入社して10年目になります。入社当時は、まだまだスポーツ選手としての経験も浅く、練習方法やスポーツ貧血などに悩んでいたようです。でも、彼女はがんばり屋さ

北京では悔いの残らないレースを

高校生時代から川崎を指導していますが、彼女は本当に根気強く、負けん気の強い人間です。彼女の勝つために努力する姿は、同じ場所練習している高校生たちにも大変良い刺激になっています。

今回は入賞を期待しています

肉体的にも精神的にもレベルアップしています。また、五輪の雰囲気も一度経験していますから、冷静にレースに臨めると思います。入賞を期待しています。がんばれ川崎。



鈴木理弘 コーチ  
(下館第二高校教諭)

前回のアテネ五輪は出場することが目的でしたが、2回目となる今回は、入賞することが目的です。前回とは比べものにならないほど、彼女は



海老澤 陟 監督  
(海老澤製作所代表取締役)

北京にかける熱い思いが彼女から伝わってきます。会社としても、本番で100%の力が出せるよう、彼女の挑戦を応援しあげたいと思います。



昨年8月に開催された「世界陸上」。猛暑のなか、世界の強豪を相手に、川崎選手(中央)は10位と大健闘。

# 北京へ

川崎真裕美選手の  
挑戦

夢とは未来への挑戦状かもしれない  
誰にも確信できる未来は無いだらう  
未来は未知である  
でも夢に近づくことは誰にも出来るだらう  
己がそうなりたいという希望を常に持ち  
いつも前向きにめげることなく  
そして夢に向かっての努力を惜しまず  
頑張りつづけることの出来る強い意志によって…  
つまずいてもいい  
誰に負けたっていい  
自分に負けなければ  
夢を現実にする日は遠くないだらう

Yayumi  
夢 20kmW